

新年ご挨拶

経済産業省 商務情報政策局 情報産業課長

金指 壽



令和5年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

今、世界は時代の転換点を迎えています。気候変動、コロナ禍、ロシアによるウクライナ侵略という3つの危機に加え、特に日本においては、地域にも大きな影響を与える少子高齢化・人口減少という課題への同時対応が求められています。

こうした逆境は、日本が自己変革に挑戦し、成長する好機でもあります。足下の日本企業の設備投資計画は過去最高水準の伸び率であり、企業の投資意欲がこれまでになく高まっています。この変化の兆しを逃すことなく、政府の大胆な支援によって、民間の投資を呼び込み、イノベーションによって生産性を上げ、所得を向上させる、いわば、「投資とイノベーションと所得向上の3つの好循環」を実現することが重要です。

このスイッチを押す役割を果たすのが、今般の補正予算で盛り込まれた、政府全体で7兆円規模、かつ複数年にわたる戦略的な投資支援です。この中で「デジタル」が重点分野に位置づけられ、半導体や通信、コンピューティング、蓄電池等、DX・G

X・経済安全保障を支える半導体・デジタル産業分野への広範な支援パッケージが組まれています。これまで「半導体・デジタル産業戦略」に基づき、官民がスピード感を持って取り組んできた結果が着実に実を結びつつあると感じています。

情報処理基盤は、ものづくりや金融、カーボンニュートラルなど、あらゆる分野の高度化に必要となるインフラであり、日本としてもこの分野で高い付加価値を提供できる産業基盤を構築していくことが重要です。そのためには、高度な計算需要を持つユーザーコミュニティやその需要に応える基盤を開発するコミュニティで、目指すべき方向性を具体化・共有化し、不足する技術・ノウハウ等の高度化に取り組むことが重要です。

そのため、具体的には、IPAにおいて、デジタルツインの実現に向けたアーキテクチャ具体化等、取り組むべき重要分野を特定し、様々な知見を持つ人材のハブとなり、ガイドライン等の策定に取り組んでまいります。また、クラウドやAI、量子などコンピューティング関連技術の開発支援に取り組んでまいります。

これまでも組込みソフトウェア産業分野は、自動車のリアルタイム制御等の高い技術力により、わが国産業を支えてきました。そして今後、サイバーとフィジカルが高度に融合し、自動運転やスマートシティといったユースケースが実現されるSociety5.0の社会においては、エッジ側の大量データを迅速に顧客価値に結び付けるために、エッジからクラウドまでを高度に制御することが求められます。このビジョンの実現に向けて、リアルタイム処理の強みを活かしながら、我が国のデジタル産業を発展させることを期待しております。

今年は、十干十二支の「癸卯」です。これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年になると言われています。デジタル社会の実現に向けて飛躍的な成果を上げるべく、前例に縛られず、あらゆる政策を総動員し、皆様の前向きな取組を後押ししながら、共に取り組んでまいりたいと思います。

最後に、貴業界の皆様様の益々の御発展と、本年が素晴らしい年となることを祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。